令和８年７月 31 日（金）
義務教育課

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

１　調査の概要

(1) 実施日及び教科
令和８年４月 23 日（木）　国語、算数・数学
令和８年４月 20 日（月）～23 日（木）　中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」
令和８年４月 24 日（金）～５月 29 日（金）　中学校英語「話すこと」

(2) 調査対象　小学校第６学年、中学校第３学年の全児童生徒

(3) 調査内容

○教科に関する調査
小学校調査…国語、算数
中学校調査…国語、数学及び英語

・国語及び算数・数学は、冊子を用いた筆記方式(「PBT」(= Paper Based Testing))で実施する。英語は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システムによるオンライン方式(「CBT」(= Computer Based Testing))で実施する。ただし、点字問題については、冊子を用いることを基本とするが、英語「話すこと」の解答については CBT で実施する。
・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
・出題形式について、記述式の問題を一定割合で出題する。英語「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式とする。
・英語の出題には、学力の状況や変化を正確に把握することを主目的とする非公開問題を含む。

○質問調査
調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査(児童を対象とする場合は「児童質問調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問調査」)を、児童生徒が活用する ICT 端末等を用いて CBT で実施する。ただし、点字問題については、冊子を用いることを基本とする。

(4) 参加状況（全国の公立小学校 18,126 校、公立中学校 9,249 校）

○本県（公立）

	実施校(校)
小学校	177
中学校	92
義務教育学校（前期課程）	9
義務教育学校（後期課程）	10
特別支援学校（小学部）	1
特別支援学校（中学部）	1

2　教科に関する調査結果の概要

国語、算数・数学、英語３技能の全国、奈良県は公立の結果を示しています。

【小学校】

（上段：平均正答数　下段：平均正答率）

	国語		算数	
	全国	奈良県	全国	奈良県
R8	7.9/13 問 60.9%	7.9/13 問 61%	9.0/16 問 56.4%	9.0/16 問 56%
［参考］ R7	9.4/14 問 66.8%	9.4/14 問 67%	9.3/16 問 58.0%	9.3/16 問 58%

【中学校】

（国語・数学は、上段：平均正答数　下段：平均正答率、R8 の英語は平均 IRT スコア）

	国語		数学		英語３技能	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
R8	9.6/15 問 63.9%	9.2/15 問 61%	9.1/16 問 57.0%	8.9/16 問 56%	499	496
［参考］ R7	7.6/14 問 54.3%	7.4/14 問 53%	7.2/15 問 48.3%	7.1/15 問 47%		

※平成 29 年度から、国からの各都道府県の平均正答率の提供が整数値となったため、奈良県の平均正答率は整数値で示しています。

※中学校英語は、IRT（項目反応理論）に基づき、500 を基準に算出した IRT スコアで結果を示しています。今回の結果公表は、「聞くこと・読むこと・書くこと」の３技能を統合した IRT スコアが提供されています。「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の４技能を統合した調査結果は９月以降に提供される予定となっています。

3　児童生徒質問調査結果の概要（＊質問事項は、小学校73項目、中学校80項目から抜粋）

前回調査より上昇

○学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

	質問		奈良県	全国	差	県R07	県R06	県R05	県R04
1	前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、**資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか** （発表していた、どちらかといえば発表していた）	小	66.6	66.4	0.2	68.5	67.6	61.9	63.1
		中	60.3	65.5	-5.2	57.0	60.3	57.2	56.6
2	前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、**自分で考え、自分から取り組んでいましたか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	75.2	77.6	-2.4	78.1	80.8	76.5	73.4
		中	70.5	78.8	-8.3	68.1	73.0	72.9	72.5
3	前学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、**自分の考えをまとめる活動を行っていましたか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	67.5	73.4	-5.9	72.4	76.2	68.2	65.1
		中	56.5	70.8	-14.3	55.6	61.7	55.1	52.0

○ICTを活用した学習状況

	質問		奈良県	全国	差	県R07	県R06	県R05	県R04
1	**前学年までに**受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、**どの程度使用しましたか** （ほぼ毎日、週３回以上、週1回以上）	小	84.0	87.9	-3.9	86.2	82.0	87.9	84.5
		中	87.7	92.9	-5.2	86.0	83.1	84.5	74.8
2	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で**文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる**と思いますか （そう思う、どちらかといえばそう思う）※	小	77.7	79.1	-1.4	―	―	―	―
		中	80.1	84.8	-4.7	―	―	―	―
3	あなたは自分が**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる**と思いますか （そう思う、どちらかといえばそう思う）※	小	83.9	84.9	-1.0	―	―	―	―
		中	88.3	90.9	-2.6	―	―	―	―
4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って**情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる**と思いますか （そう思う、どちらかといえばそう思う）※	小	66.2	69.5	-3.3	―	―	―	―
		中	62.0	69.4	-7.4	―	―	―	―
5	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って**学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる**と思いますか （そう思う、どちらかといえばそう思う）※	小	72.9	74.6	-1.7	―	―	―	―
		中	73.5	80.0	-6.5	―	―	―	―

※質問２～５はR07からの質問項目であるが、選択肢が変更になったため、県R07は示していません。

○挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況

	質問		奈良県	全国	差	県R07	県R06	県R05	県R04
1	自分には、**よいところがあると思いますか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	85.6	85.6	0.0	87.0	83.7	83.0	77.9
		中	82.7	84.0	-1.3	84.8	80.7	77.9	73.5
2	先生は、あなたの**よいところを認めてくれていると思いますか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	93.3	91.4	1.9	93.9	91.0	89.8	87.3
		中	89.8	90.9	-1.1	90.9	88.1	85.4	83.2
3	将来の**夢や目標を持っていますか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	82.0	81.8	0.2	82.8	80.7	79.7	78.5
		中	65.3	67.6	-2.3	64.2	63.1	62.6	65.7
4	人が困っているときは、進んで**助けていますか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	93.2	92.7	0.5	93.7	92.8	91.2	88.6
		中	88.5	90.8	-2.3	89.1	87.9	86.4	86.8
5	困りごとや不安がある時に、**先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	72.8	70.6	2.2	71.5	67.9	67.1	65.9
		中	70.0	71.9	-1.9	70.4	64.5	63.0	62.6
6	**人の役に立つ**人間になりたいと思いますか （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	96.3	95.8	0.5	96.8	96.0	96.1	95.7
		中	95.2	95.9	-0.7	95.9	93.9	93.8	94.6
7	**自分と違う意見について考える**のは楽しいと思いますか （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	77.9	77.9	0.0	77.0	75.2	74.5	70.3
		中	72.9	78.6	-5.7	71.7	70.7	73.3	70.6
8	友達関係に**満足していますか** （当てはまる、どちらかといえば当てはまる）	小	91.0	91.1	-0.1	91.6	91.6	90.5	―
		中	90.5	91.2	-0.7	89.6	89.2	88.6	―
9	普段の生活の中で、**幸せな気持ちになることはどれくらいありますか** （よくある、ときどきある）	小	93.8	92.5	1.3	93.7	92.1	91.0	―
		中	91.3	91.0	0.3	91.2	89.6	87.4	―

４　今後について

本調査の結果を受け、県教育委員会では、学習指導の改善・充実に資するよう、各教科の個々の設問の回答状況や質問調査の結果と合わせた総合的な分析を進めてまいります。９月の定例教育委員会で報告を予定しています。

８月下旬に市町村教育委員会の担当者を対象に説明会（「令和８年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた市町村教育委員会向け説明会」）を、９月以降に、教科等研究会と連携し、義務教育諸学校教員を対象に、説明会を行う予定をしています。

また、本年度当課では、県内小・中学校10校を指定し、「学ぶ力育成実践研究事業」に取り組んでおり、研究成果等の報告会を予定しています。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）について

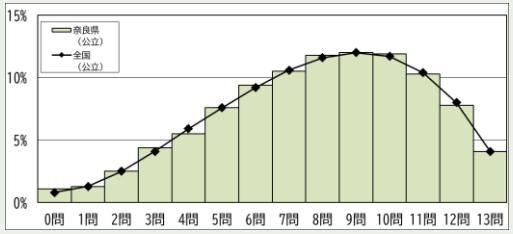
（資料１）

１　各教科調査の結果について

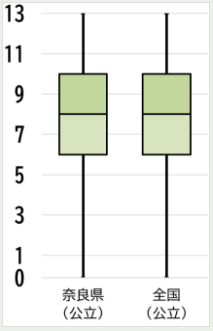
小　学　校

国語

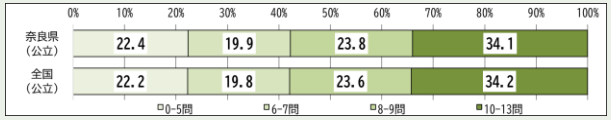
（1）正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



（2）正答数の箱ひげ図

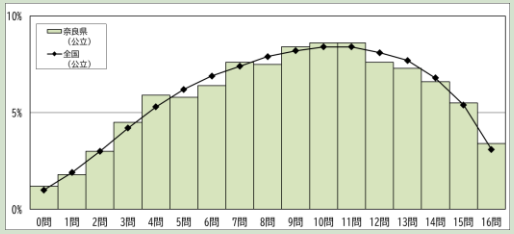


（3）正答数ごとの層分布（全国四分位）

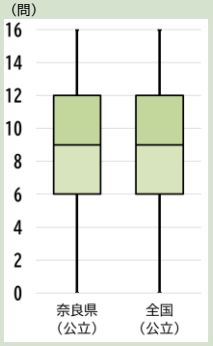


算数

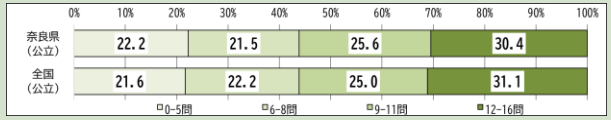
（1）正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



（2）正答数の箱ひげ図



（3）正答数ごとの層分布（全国四分位）



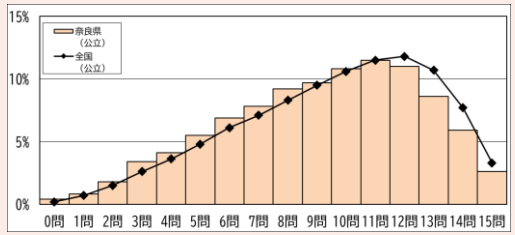
〇小学校国語、小学校算数ともに、奈良県（公立）と全国（公立）の正答数の分布に大きな差は見られません。
〇各児童の正答数の散らばりを表した箱ひげ図や、正答数を４つの層に分け、それぞれの人数の比率を示した層分布のグラフを比較しても全国（公立）と大きな差は見られません。

〇中学校国語は正答数が９問以下の生徒の割合が、中学校数学は正答が４問以下の生徒の割合が、それぞれ全国（公立）と比べ、高い傾向が見られます。
〇中学校英語[３技能]はIRTスコアを１～５の５段階に区切ったIRTバンドの４以上に属する生徒の割合は、全国（公立）と比べ、大きな差は見られませんが、１に属する生徒の割合は、全国（公立）と比べ、高い傾向が見られます。

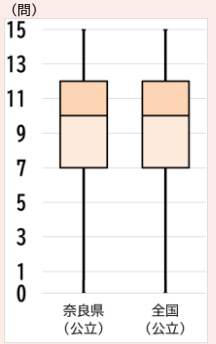
中　学　校

国語

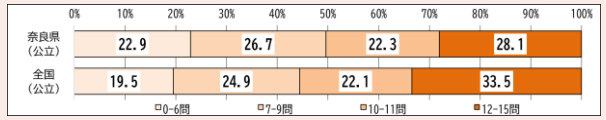
（1）正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



（2）正答数の箱ひげ図

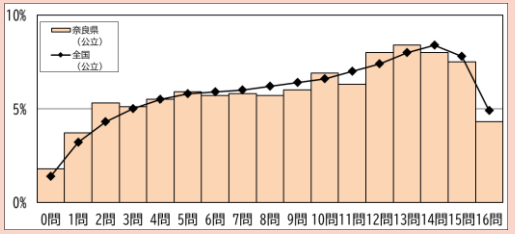


（3）正答数ごとの層分布（全国四分位）

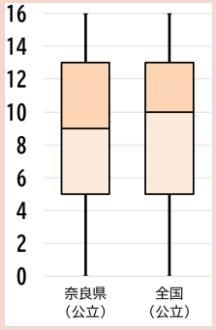


数学

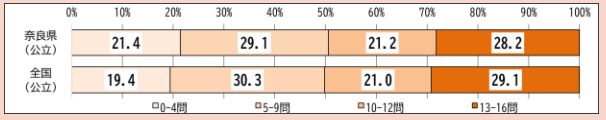
（1）正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



（2）正答数の箱ひげ図

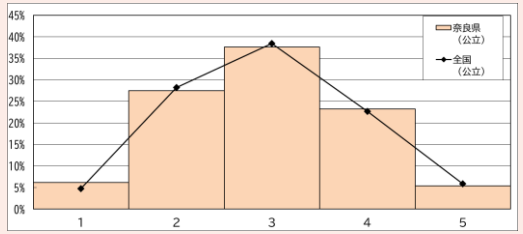


（3）正答数ごとの層分布（全国四分位）

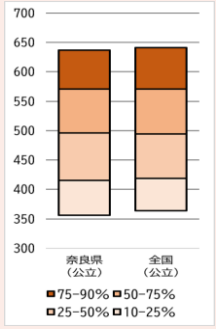


英語[３技能]

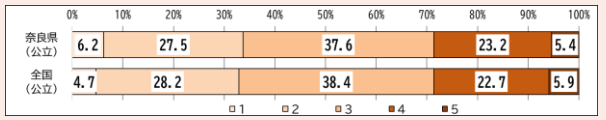
（1）IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド　縦軸：割合）



（2）IRTスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%, 25%, 50%, 75%, 90%）



（3）IRTバンド分布比較



※英語[３技能]は、「聞くこと・読むこと・書くこと」の３技能を統合したIRTスコア

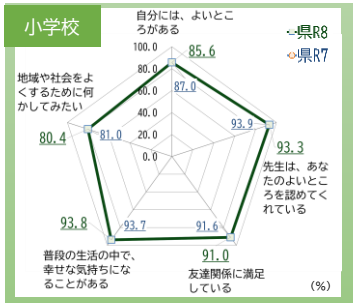
令和８年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）について

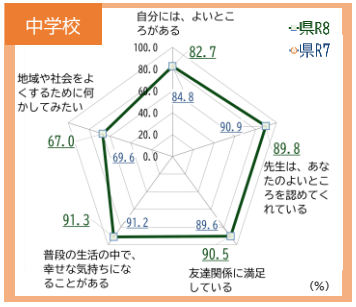
（資料１）

２　児童生徒質問調査の結果について

（１）挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

児童生徒のウェルビーイングの状況に関する質問項目に対する肯定的回答の割合

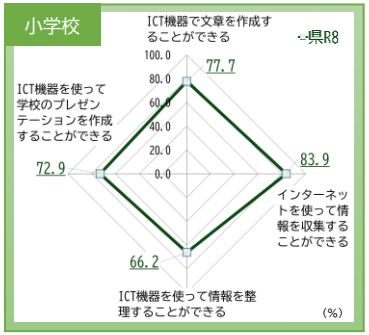


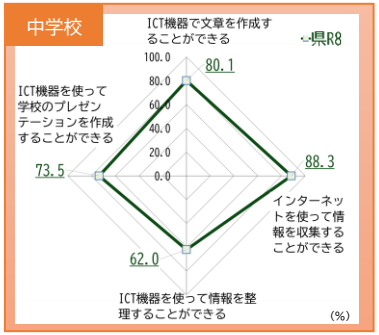


○約９割の児童生徒が「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」に肯定的に回答しています。

（２）ICTを活用した学習状況について

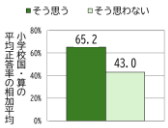
ICTを活用する自信に関する質問項目に対する肯定的回答の割合

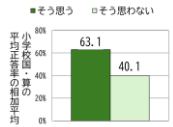




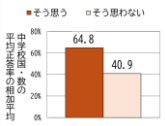
ICTを活用する自信に関する選択肢ごと（そう思う、そう思わない）の平均正答率

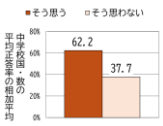
（小学校）

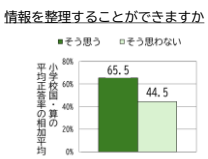


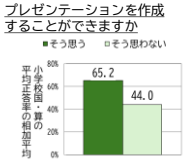


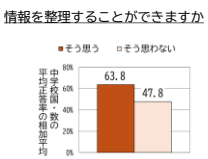
（中学校）

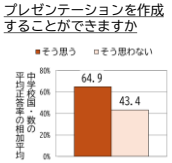










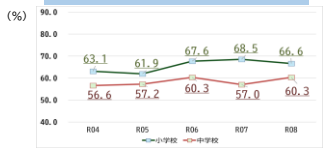


○約８割の児童生徒が「ICT機器で文章を作成することができる」、「インターネットを使って情報を収集することができる」と回答しています。
○ICT機器を活用することができると回答している児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

（３）学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況について

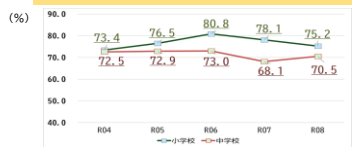
主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える（とてもそう思う、そう思う）児童生徒の割合の経年変化

授業で工夫して発表していた



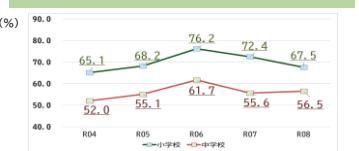
「授業で工夫して発表していますか」と平均正答率とのクロス集計

課題の解決に向けて自分から取り組んだ



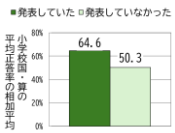
「課題の解決に向けて自分から取り組んでいますか」と平均正答率とのクロス集計

学んだことを生かしながら考えをまとめていた

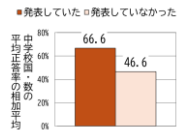


「学んだことを生かしながら考えをまとめていますか」と平均正答率とのクロス集計

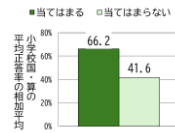
（小学校）



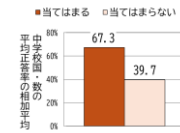
（中学校）



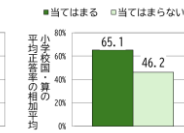
（小学校）



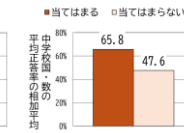
（中学校）



（小学校）



（中学校）

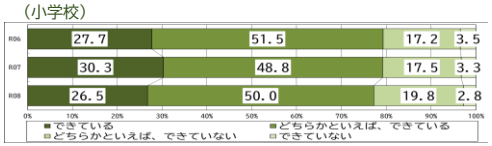


○約７割の児童生徒が課題の解決に向けて自分から取り組んだと回答しています。
○令和７年度と比べて、ほとんどの質問項目で肯定的に回答した児童の割合は減少し、生徒の割合は増加しています。
○主体的・対話的で深い学びに取り組んだと回答している児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

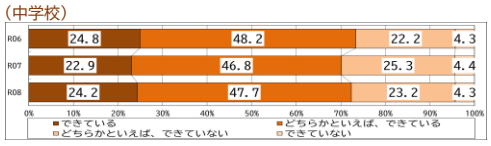
（４）学びの自己調整について

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」の回答状況の経年比較

（小学校）

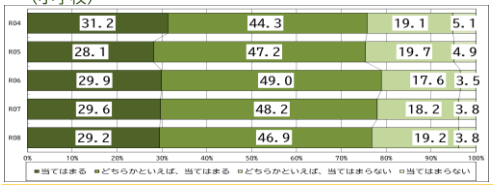


（中学校）

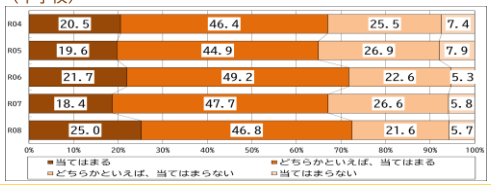


「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の回答状況の経年比較

（小学校）



（中学校）

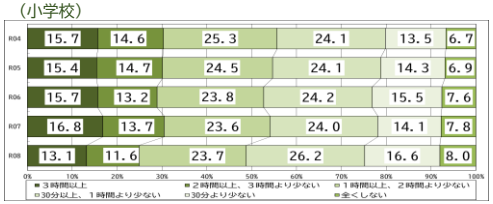


○約７割の児童生徒が「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」に「できている」「どちらかといえば、できている」と肯定的に回答しています。
○約８割の児童、約７割の生徒が「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答しています。

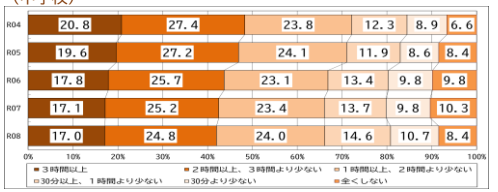
（５）学校外での学習状況について

平日の学校の授業時間以外の勉強時間に関する回答状況の経年比較

（小学校）



（中学校）



○平日の学校の授業時間以外に勉強を全くしないと回答している児童の割合は昨年度より増加し、生徒の割合は昨年度より減少しています。